

自己点検・自己評価

《評価とその内容》

- 5:達成している 4:ほぼ達成している 3:どちらともいえない
2:取り組みを検討中 1:改善が必要

1. 教育理念・目的等

1	理念・目的・育成人材像は定められているか	4.5
2	育成人材像は各学科の関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	4.1
3	理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	4.2
4	学校の将来構想を抱いているか	3.5

〈現状と課題〉

「こころとからだが動く介護」を教育方針として実践している。愛と信念の校訓に基づき
しゃかいに貢献できる人材を育成するために、今後も全教職員が連携、協働しながら教育
活動に取り組んでいかなければならない。

2. 学校運営

5	法人の組織運営を適切に行っているか	3.8
6	学校運営のための組織を整備しているか	3.9
7	意思決定システムを整備しているか	3.5
8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3.5

〈現状と課題〉

学校運営は適切に行われている。業務の効率化は今後さらに検討が必要である。
情報システム化については、組織自体のシステム面の効率化とそれに適応できる個人
の能力向上が必要である。

3. 教育活動

9	理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	4.2
10	学科ごとに修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	4.2
11	教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	4.2
12	シラバス（授業計画書）は学生が授業内容を理解しやすく、授業内容と 一致しているか。	4.5
13	授業内容や指導方法が学生レベルにあうよう工夫・改善しているか。	3.9
14	未履修科目の原因分析を教員側と学生側とで実施し、対応策を講じてい るか。	4.2
15	学生に修了認定のための評価基準と方法を公開しており、かつ、評価が 公平性・妥当性が保たれているか。	4.3

16	実習目標に沿った施設の選択及び学習環境・指導体制が整っているか	4.5
17	実習指導者と教員の役割を明確にしているとともに、実習指導者と教員の協働体制を整えているか。	4.5
18	実習において、学生が関係したインシデント等を把握・分析しているとともに、改善策を講じているか。	4.4
19	成績評価・修了認定基準を明確化し、適正に運用しているか	4.5
20	資格・免許取得の指導体制はあるか	4.5
21	資格・要件を備えた教員を確保しているか	4.7
22	教育の質を向上させるための取り組みが確立されているか	4.2
23	教職の組織体制を整備しているか	4.0

〈現状と課題〉

担任、各科目担当と連携しながら、学生レベルに合わせた授業内容の調整や指導を行っている。学科によって一般学生と留学生在が共に学んでいるため、理解度に合わせた授業内容を工夫している。今後も学生レベルと理解度を把握しながら指導していく必要がある。

4. 学生支援

24	進学・就職指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4.1
25	学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4.5
26	退学率の低減が図られているか	4.4
27	学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	4.6
28	保護者と適切に連携しているか	4.5
29	卒業生への支援体制はあるか	3.9
30	（日本語科）日本を理解するための支援が適切に行われているか	4.3
31	（日本語科）入国・在留関係の管理・指導と支援が適切に行われているか	4.5
32	（日本語科）我が国の法令を遵守させる指導を行っているか	4.3

〈現状と課題〉

各学科の担任が学生の状況に合わせた個別対応や、必要時に保護者と連絡をとりながら協力体制を整え、学生を支えている。進学・就職指導に関する学生支援の体制は整備されており、就職率は100%である。

今後も学生、留学生への支援、法令遵守の指導を適切に行っていく必要がある。

5. 学習成果

33	就職率の向上が図られているか	4.5
34	資格・免許取得率の向上が図られているか	4.5
35	卒業生の社会的評価を把握しているか	3.5

〈現状と課題〉

就職率の向上を図り、就職に関する情報提供、アドバイスを行っている。

領域の専門性を生かした学習と各教員の協働により、介護福祉士国家試験合格率を上げようとしている。今後は、留学生を含めた対策が必要となり、学生の状況にあわせた学習指導と工夫が課題である。

6. 教育環境

36	教育上の必要性に対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	3.6
37	防災に対する組織体制を整備し、適切に運営しているか	3.6
38	学内における安全管理体制を整備し、適切に適用しているか	4.1

〈現状と課題〉

教育上に必要な施設・設備・用具等が整備されているが、現場に出たときに困ることがないように、物を大切に扱うことを学生に意識させている。防災に対する組織体制は整備されているが、今後もコンプライアンス通り行う努力が必要である。

7. 学生募集活動

39	高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	4.5
40	学生募集活動を適切、かつ、効果的に行っているか	4.4
41	入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	4.6
42	経費内容に対応し、学納金を算定しているか	4.5
43	入学辞退者に対し授業料等について適切な取り扱いを行っているか	4.8

〈現状と課題〉

広報部を中心に、学校訪問や、オープンキャンパス等で学生没収活動を適切、効果的にやっている。今後は全教職員が学生募集に関わり、連携、協働しながら現情勢を乗り切っていかなければならない。

8. 財務

44	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3.4
45	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3.6
46	財務について会計監査が適正に行われているか	4.0
47	財務情報公開の体制整備はできているか	3.9

〈現状と課題〉

財政基盤を安定させるため、学習募集、社会への貢献活動を行っている。
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっている。学生が定員に達している学科もあり、今後も継続した学生募集をしていかなければならない。

9. 法令等の遵守

48	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4.5
49	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4.5
50	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に務めているか	4.1

5 1	自己点検・自己評価結果を公開しているか	4. 1
5 2	関係省庁への定期報告を遅延なく実施しているか	4. 5

〈現状と課題〉

法令、設置基準は遵守され、適切な運営が行われている。個人情報に関し、その保護のために、対策を取り、コンプライアンス通り行っている。

今後も、法令、遵守を全職員が意識していくことが必要である。

10. 社会貢献

5 3	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	3. 6
5 4	学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	3. 6

〈現状と課題〉

学校の施設を活用した社会貢献も行い、外部講義等も積極的に行っている。

福祉に携わる学校として、社会貢献ができるよう今後の状況や変化に合わせて、ボランティア活動を積極的に推奨していかなければならない。

コロナの影響が残っており、ボランティアの要請が減少したが、要請があれば学生に紹介し社会経験を積むように指導する。

令和7年度 広島福祉専門学校
学校関係者評価報告書

1. 学園建学の精神

学校法人中川学園は、『愛と信念』の校訓の下に、福祉教育を実践する教育機関である。

学生・生徒に対する教育方針は、『1. 愛情、2. 厳正、3. 信頼』である。すなわち、教職員は惜しみない愛情をもって生徒に接し、正しいことは妥協せず厳しさをもって教え、それによって教職員と学生・生徒との間に信頼関係が芽生える教育を目標としている。

2. 広島福祉専門学校の目標

中国四国地方では最も伝統のある職業教育専門校として、「愛と信念」の校訓の下、思いやりに満ちた福祉専門職を養成し、もって地域福祉に貢献することを目的とする。

3. 学校自己点検・自己評価報告書について

評価は1～5点で、

5：適切、4：やや適切、3：どちらともいえない、2：やや不適切、1：不適切

学校自己点検・ 自己評価報告基準	学校自己点検・自己評価報告基準についての評価点の平均		
	自己評価の 結果が適切か	改善に向けた 取り組みが適切か	今後の改善方策が 適切か
1. 教育理念・目的等	4.0	3.5	3.0
2. 学校運営	3.0	3.0	3.0
3. 教育活動	4.3	4.0	4.0
4. 学生支援	4.7	4.8	4.8
5. 学習成果	4.1	3.8	3.3
6. 教育環境	3.2	3.3	3.5
7. 学生募集活動	4.0	3.0	2.8
8. 財務	3.0	2.8	2.8
9. 法令等の遵守	4.8	4.8	4.8
10. 社会貢献	3.0	3.0	4.0

4. 講評

教育目的、教育活動、学生支援、学習成果、学生募集活動、法令遵守の項目で自己評価が高い。低めは学校運営、教育環境、財務と社会貢献である。すなわち、多くの教職員は自らの業務については満足のいく結果であると考えている。そして、昨今では初めて学生募集活動の自己評価が高くなった。ところが、実際に教職員が直接指揮できない項目について成果を認めることができず、その点が大きな問題である。

学校の力は学生の数である。学生募集では定員は必ず集めるということが大切である。その点から考えると、今年度は 1 つの学科を除いて定員を充足したため、学生募集活動の自己評価が上がったと考えられる。

今回の課題として、今後の改善方策がマンネリ化している点が否めない。また、丁寧さにも欠けていると考えられる。今後はより具体的な改善方策を打ち立てることが望まれる。

以上